

2010年度 一般2月入学試験 2月6日

# 世界史

## 〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は15ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があってから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

# 世界史

(60分 100点)

I 西アジアの歴史について述べた次の文章A・Bを読んで、以下の問いに答えなさい。(40点)

A  系のアッシリア人によって北部メソポタミアにおこったアッシリア王国は、騎馬隊や鉄製の武器を使用して勢力を伸ばし、前7世紀前半にはオリエントの大部分を統一した。<sup>(1)</sup>しかし、この王国は重税や強制移住などに対する服属民の反抗によって、前612年に滅亡した。この王国の滅亡後、オリエントにはエジプト・新バビロニア(カルデア)・メディア・リディアの4王国が分立した。<sup>(2)</sup>前6世紀なかばごろ、イラン(ペルシア)人のアケメネス朝がおこって、これら4王国を征服し、ダレイオス1世の時代には、西はエーゲ海北岸から東はにおよぶ大帝国を建設した。アケメネス朝は服属した異民族に対して寛容な政治を行ったが、ギリシアとの戦争(ペルシア戦争)に敗北した後はしだいに勢力が衰え、前330年にアレクサンドロス大王によって滅ぼされた。

アレクサンドロス大王の死後、アジアの領土の大半はセレウコス朝に引き継がれたが、その支配下からさまざまな国が独立した。前3世紀なかばのイラン高原に成立したは、前2世紀なかばにメソポタミアを併合し、東西貿易の利益を独占して繁栄した。これを滅ぼしてササン朝をおこしたのがアルダシール1世である。彼はを首都とし、を国教とした。第2代のシャープール1世は、東はの領土を奪い、西はローマ帝国を退けて西アジア一帯を支配下においた。5世紀にはエフタルの侵入で苦しめられたが、6世紀ののときにはビザンツ帝国と戦い、また、突厥と結んでエフタルを滅ぼして全盛期を迎えた。しかし、彼の没後はしだいに衰え、7世紀なかばには新興のイスラーム勢力のアラブ人に滅ぼされた。

問1 文中の空欄  ～  に入る語句として適当なものを、次の①～④の中からそれぞれ1つずつ選びマークしなさい。  ～

- |                                |         |              |
|--------------------------------|---------|--------------|
| <input type="text" value="1"/> | ① アルタイ語 | ② インド＝ヨーロッパ語 |
|                                | ③ セム語   | ④ ドラヴィダ語     |

- |                                |         |         |
|--------------------------------|---------|---------|
| <input type="text" value="2"/> | ① アム川   | ② インダス川 |
|                                | ③ ガンジス川 | ④ タリム川  |

- |                                |            |            |
|--------------------------------|------------|------------|
| <input type="text" value="3"/> | ① アンティゴノス朝 | ② プトレマイオス朝 |
|                                | ③ バクトリア    | ④ パルティア    |

- |                                |          |          |
|--------------------------------|----------|----------|
| <input type="text" value="4"/> | ① クテシフォン | ② スサ     |
|                                | ③ バビロン   | ④ ペルセポリス |

- |                                |           |         |
|--------------------------------|-----------|---------|
| <input type="text" value="5"/> | ① ゾロアスター教 | ② マズダク教 |
|                                | ③ マニ教     | ④ ミトラ教  |

- |                                |          |         |
|--------------------------------|----------|---------|
| <input type="text" value="6"/> | ① クシャーナ朝 | ② グプタ朝  |
|                                | ③ ナンダ朝   | ④ マウリヤ朝 |

- |                                |          |            |
|--------------------------------|----------|------------|
| <input type="text" value="7"/> | ① キュロス2世 | ② カンビュセス2世 |
|                                | ③ ホスロー1世 | ④ ミトラダテス1世 |

問2 文中の下線部(1)に関連して、アッシリア王国の政策として正しいものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 8

- ① 「王の道」と呼ばれる国道を整備した。
- ② 「王の目」と呼ばれる監察官を各地に巡回させた。
- ③ 首都のニネヴェに大図書館を建設した。
- ④ 全国を約20の州に分け、サトラップと呼ばれる知事をおいた。

問3 文中の下線部(2)に関連して、この武器を最初に広く使用した民族を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 9

- ① アムル人
- ② アラム人
- ③ カッシート人
- ④ ヒッタイト人

問4 文中の下線部(3)の4王国の中で世界最古の鑄造貨幣を使用したと言われる王国を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 10

- ① エジプト
- ② 新バビロニア（カルデア）
- ③ メディア
- ④ リディア

B 7世紀はじめ、クライシュ族の商人であったムハンマドはイスラーム教を創始し、630年 [ 11 ] を無血征服し、その後アラビア半島の大部分をその支配下においた。ムハンマドの死後、カリフと呼ばれる後継者たちは大規模な征服活動を行い、東方ではササン朝と戦ってこれを破り、西方ではビザンツ帝国と戦ってシリアとエジプトを奪い、多くのアラブ人が征服地へ移住した。しかし、第4代カリフのアリーが暗殺されると、アリーと敵対していた [ 12 ] は、661年にウマイヤ朝を開いてカリフを称した。ウマイヤ朝も積極的に征服活動をすすめ、西北インド、北アフリカ、イベリア半島にまで征服地を広げ、広大なアラブ帝国を実現した。

ウマイヤ朝の支配に不満を抱く非アラブ人改宗者（マワーリー）などの協力を得て、アッバース家が革命運動をおこし、750年にアッバース朝が開かれた。この王朝は、第2代カリフのマンスール(5)のときに円形の首都 [ 13 ] を造営し、第5代カリフの [ 14 ] のときに全盛期を迎えた。しかし、彼の没後から帝国各地に独立の王朝が成立するようになり、10世紀はじめに北アフリカにおこったシーア派のなかでも過激な一派の [ 15 ] や後ウマイヤ朝の君主がそれぞれカリフを称したことにより、イスラーム世界の分裂は決定的となった。946年に [ 13 ] に入城したブワイフ朝は、大アミールの地位を得てアッバース朝カリフから実権を奪ったが、1055年に [ 16 ] のセルジューク朝によって滅ぼされた。一方、エジプトでは1169年にクルド人の [ 17 ] がアイユーブ朝を建国し、聖地イェルサレムを奪回した。1250年にアイユーブ朝を倒して樹立されたマムルーク朝(6)は、モンゴル軍を撃退してアッバース朝カリフの一族を保護し、聖都を保護下において権威を高めた。

問5 文中の空欄 [ 11 ] ~ [ 17 ] に入る語句として適当なものを、次の①~④の中からそれぞれ1つずつ選びマークしなさい。 [ 11 ] ~ [ 17 ]

[ 11 ]

- ① バスラ  
③ メッカ

- ② フスタート  
④ メディナ

12

- ① アブー＝バクル                      ② ウスマーン  
③ ウマル                                  ④ ムアーウィヤ

13

- ① カイロ                                  ② コルドバ  
③ ダマスクス                          ④ バグダード

14

- ① アブド＝アッラフマーン3世      ② ハールーン＝アッラシード  
③ マリク＝シャー                      ④ バイバルス

15

- ① カラ＝ハン朝                          ② サーマーン朝  
③ ファーティマ朝                      ④ ムラービト朝

16

- ① イラン系                              ② トルコ系  
③ スラヴ系                              ④ モンゴル系

17

- ① サラディン                            ② トゥグリル＝ベク  
③ ニザーム＝アルムルク              ④ フラグ

問6 文中の下線部(4)に関する説明として正しいものを、次の①～④の中から1つ  
選びマークしなさい。

18

- ① イスラーム教徒の共同体としてウンマを建設した。  
② 伝統的な偶像崇拜を容認した。  
③ ムハンマドの時代に『コーラン』が編集された。  
④ ユダヤ教徒やキリスト教徒を迫害した。

問7 文中の下線部(5)に対する課税の説明として正しいものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

19

- ① アッバース朝時代には、地租（ハラージュ）と人頭税（ジズヤ）が課せられるようになった。
- ② アッバース朝時代には、地租（ハラージュ）が免除されるようになった。
- ③ アッバース朝時代には、人頭税（ジズヤ）が免除されるようになった。
- ④ アッバース朝時代には、地租（ハラージュ）と人頭税（ジズヤ）が免除されるようになった。

問8 文中の下線部(6)に関する説明として正しいものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

20

- ① マムルークとは主としてアフリカ黒人の奴隷のことである。
- ② 第4回十字軍と戦い、これに勝利した。
- ③ 土地の徴税権を軍人に与えるイクター制を創始した。
- ④ オスマン帝国のセリム1世によって滅ぼされた。

II 中国を中心とした朝貢や冊封体制について述べた次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。(30点)

中国の皇帝が、儒教思想を基礎として、周辺諸国の君主との間に形式的な君臣関係を結ぶことで形成された東アジア世界の国際秩序を冊封体制と呼ぶ。冊封体制は、前漢初期に広東・広西からベトナム北部の地域にあった [ 21 ] と衛氏朝鮮が冊封を受けたことが始まりとされる。この両国がのちに漢に滅ぼされたことにより、冊封体制はいったん消滅するが、前漢末期には高句麗などを対象として復活した。後漢時代に入ると、倭の奴国が朝貢して [ 22 ] から「漢委奴国王」の金印を授かっている。また、邪馬台国の女王卑弥呼は三国時代の魏から「親魏倭王」の称号を与えられている。

五胡十六国時代には、[ 23 ] を滅ぼして朝鮮半島北部を支配下においた高句麗が前燕、前秦から冊封を受けた。また、4世紀なかばに朝鮮半島南部に成立した新羅・百済のうち、新羅は前秦から、百済は東晋から冊封を受けた。5世紀に入ると、これらの三国はいずれも南朝から冊封を受け、日本もいわゆる倭の五王が南朝から冊封を受けた。一方で、高句麗は北朝の [ 24 ] からも冊封を受けるなど、この時代の冊封体制は中国の分裂を反映した不安定かつ流動的なものであった。

隋によって中国が統一されると一元的な冊封体制が復活し、つづく唐の隆盛は、唐を中心にすえる冊封体制を基礎とする東アジア世界の国際秩序を成立させた。朝鮮半島を統一した新羅、高句麗の遺民らによって建国された渤海、南詔などを冊封体制に組み入れた。また、ウイグル、突厥、吐蕃などとは冊封体制とは異なる父子・兄弟の関係を結び、冊封体制の外側にあった日本・カンボジア・チャンパー・シュリーヴィジャヤ王国などとは朝貢貿易を行った。<sup>(1)</sup>

この冊封体制は唐の滅亡とともに崩壊し、その後一元的な冊封体制が消滅した時代が長く続いたが、1368年の洪武帝による明の建国をきっかけに、東アジア世界での冊封体制が復活した。<sup>(2)</sup>朝鮮半島においては、高麗を倒した [ 25 ] が朝鮮をおこして明の冊封を受け、また、室町時代の日本では足利義満が明との貿易の利益を得るため日本国王の冊封を受けた。<sup>(3)</sup>洪武帝の死後、靖難の役で帝位についた永楽帝は、<sup>(4)</sup> [ 26 ] に南海遠征を行わせ、南海諸国の朝貢を促すことに成功した。15世



紀前半に中山王尚氏によって統一された琉球は、明との冊封・朝貢関係を継続し、東シナ海と南シナ海を結ぶ交易の要となった。14世紀末マレー半島南部に建国された  は、同じく明との冊封・朝貢関係を継続したが、16世紀初めポルトガルの侵攻を受けて滅亡した。明にかわって中国を支配した清<sup>(5)</sup>は、版図を拡大し、中国内地・東北地方などを直接支配し、内外モンゴル・東トルキスタン（新疆）・青海などを藩部として理藩院に統轄させ、朝鮮・などを属国として冊封体制に組み込んだ。

しかし、19世紀の西欧列強の進出によって冊封体制の崩壊が始まり、清仏戦争<sup>(6)</sup>、日清戦争の敗北により冊封体制は完全に崩壊した。<sup>(7)</sup>

問1 文中の空欄  ～  に入る語句として適当なものを、次の①～④の中からそれぞれ1つずつ選びマークしなさい。  ～

- |    |       |       |
|----|-------|-------|
| 21 | ① 大越国 | ② 大理  |
|    | ③ 南越  | ④ 扶南  |
| 22 | ① 光武帝 | ② 孝文帝 |
|    | ③ 太武帝 | ④ 武帝  |
| 23 | ① 日南郡 | ② 敦煌郡 |
|    | ③ 南海郡 | ④ 楽浪郡 |
| 24 | ① 齊   | ② 陳   |
|    | ③ 北魏  | ④ 梁   |
| 25 | ① 李白成 | ② 李時珍 |
|    | ③ 李舜臣 | ④ 李成桂 |



問3 文中の下線部(2)に関連して、北方民族と中国に関する説明 a と b の正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

30

a 金は、自民族に対しては猛安・謀克という制度をとり、漢民族に対しては州県制をとる二重統治体制を採用した。

b 契丹(遼)は、宋との澶淵の盟により、宋が毎年多額の銀や絹を契丹に贈ることを約束させた。

① a－正 b－正                      ② a－正 b－誤

③ a－誤 b－正                      ④ a－誤 b－誤

問4 文中の下線部(3)に関する説明として正しいものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

31

① 三藩の乱を鎮圧し、統治の基礎を固めた。

② 張居正を登用し、財政の安定をはかった。

③ 『四書大全』や『五經大全』を編纂させた。

④ 土地台帳として魚鱗図冊を整備させた。

問5 文中の下線部(4)が明と行った貿易を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

32

① 勘合貿易

② 三角貿易

③ 朱印船貿易

④ 南蛮貿易

問6 文中の下線部(5)に関連して、円明園の設計に参画するなど清代に活躍したイエズス会宣教師を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

33

- ① マテオ＝リッチ
- ② カステリオーネ
- ③ アダム＝シャル
- ④ ブーヴェ

問7 文中の下線部(6)に関連して、この戦争で清仏両国が宗主権を争った国を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

34

- ① カンボジア
- ② タイ
- ③ ベトナム
- ④ ラオス

問8 文中の下線部(7)について、この戦争の講和条約とその際の清朝の全権代表の組合せとして正しいものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

35

- ① 天津条約 — 康有為
- ② 天津条約 — 李鴻章
- ③ 下関条約 — 康有為
- ④ 下関条約 — 李鴻章

Ⅲ 第二次世界大戦後のソ連をめぐる国際関係について述べた次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。(30点)

第二次世界大戦後、東欧に勢力圏を拡大するソ連の動きに対して、1946年にイギリスの前首相 [ 36 ] は、いわゆる「鉄のカーテン」演説を行ってソ連を非難した。そして、1947年にアメリカのトルーマン大統領は、共産主義の進出阻止を宣言して [ 37 ] ・トルコへの経済援助を開始し、またアメリカの国務長官マーシャルは、ヨーロッパ経済復興援助計画（マーシャル＝プラン）を発表して、ヨーロッパ諸国に対して巨額の経済援助を行う姿勢を示し、西ヨーロッパ諸国のみがこの援助を受け入れた。

1948年にチェコスロヴァキアでおこった共産党によるクーデタや1948～49年の [ 38 ] は、東西対立を決定的なものにした。西側12カ国は北大西洋条約機構を結成し、西ドイツが1955年に北大西洋条約機構へ加盟すると、同年ソ連は東欧7カ国と [ 39 ] を結成した。

1953年のスターリンの死後、ソ連のフルシチョフ第一書記はスターリン批判を行うとともに平和共存路線をうちだした。1959年には訪米してアイゼンハウアー大統領と会談し、東西の緊張緩和がはかられた。そして、1962年のキューバ危機を契機に、米ソ間の偶発的戦争を防止するため両国間にホットラインが設置され、さらに、米・英・ソの3国間で [ 40 ] が結ばれた。

東ヨーロッパでは、スターリン批判をきっかけに各国で民主化を求めて反ソ暴動がおこった。ポーランドではゴムウカが自主路線を約束して事態を収拾したが、 [ 41 ] の自由化運動は他の東ヨーロッパ諸国への波及を怖れたソ連軍によって弾圧された。また、東ドイツでは西側に脱出する人々が増えたため、1961年に東西ベルリンの境界に壁が築かれた。

ソ連では、フルシチョフ失脚後に第一書記になったブレジネフが国内や東ヨーロッパ諸国への統制を強めた。一方、西ドイツの [ 42 ] は東方外交を推し進め、ヨーロッパの緊張緩和を推進した。

1985年、ソ連共産党書記長に就任したゴルバチョフは「新思考外交」を唱えて緊張緩和を進め、ソ連による他の社会主義国家への指導性を否定し、1989年にはアメ

リカのブッシュ大統領と  会談を行い、冷戦の終結を宣言した。ソ連で改革が推進されると、東ヨーロッパ諸国は次々と自由選挙による議会制民主主義・市場経済に移行した。<sup>(4)</sup> 1990年には東ドイツが西ドイツに吸収され統一ドイツが実現した。そして、ソ連内でもバルト3国<sup>(5)</sup>などで民族独立運動がおり、1991年にはソ連共産党保守派によるクーデタの失敗を契機に、・アゼルバイジャンなどのほとんどの共和国が連邦からの離脱を宣言した。ソ連共産党も解散し、同年12月には  を大統領とするロシア連邦を中心に独立国家共同体（CIS）が結成され、ソ連は解体した。

問1 文中の空欄  ～  に入る語句として適当なものを、次の①～④の中からそれぞれ1つずつ選びマークしなさい。  ～

- |           |         |          |
|-----------|---------|----------|
| <b>36</b> | ① アトリー  | ② イーデン   |
|           | ③ チャーチル | ④ チェンバレン |

- |           |        |          |
|-----------|--------|----------|
| <b>37</b> | ① イタリア | ② オーストリア |
|           | ③ ギリシア | ④ ポルトガル  |

- |           |        |             |
|-----------|--------|-------------|
| <b>38</b> | ① 朝鮮戦争 | ② アフガニスタン侵攻 |
|           | ③ 五月危機 | ④ ベルリン封鎖    |

- |           |             |             |
|-----------|-------------|-------------|
| <b>39</b> | ① コミンテルン    | ② コミンフォルム   |
|           | ③ バグダード条約機構 | ④ ワルシャワ条約機構 |

- |           |              |              |
|-----------|--------------|--------------|
| <b>40</b> | ① 核拡散防止条約    | ② 戦略兵器削減条約   |
|           | ③ 中距離核戦力全廃条約 | ④ 部分的核実験停止条約 |

- |           |         |         |
|-----------|---------|---------|
| <b>41</b> | ① アルバニア | ② ハンガリー |
|           | ③ ブルガリア | ④ ルーマニア |

42

① アデナウアー

② コール

③ シュミット

④ ブラント

43

① ジュネーヴ

② ポツダム

③ マルタ

④ ヤルタ

44

① ウクライナ

② クロアチア

③ スロヴェニア

④ フィンランド

45

① エリツィン

② チェルネンコ

③ コスイギン

④ プーチン

問2 文中の下線部(1)は通常何と呼ばれているか。呼び方として正しいものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

46

① NAFTA

② NIRA

③ NATO

④ NEP

問3 文中の下線部(2)に関連した説明として正しいものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

47

① スターリン批判の影響をうけ、ユーゴスラヴィアはコメコンから離脱した。

② スターリン批判をうけ、グラスノスチによる言論の自由が打ち出された。

③ 中国はスターリン批判に反発し、中ソ対立に発展した。

④ スターリン批判には、社会主義市場経済の導入が盛り込まれていた。

問4 文中の下線部(3)に関連して、この危機がおきたときのアメリカ大統領を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 48

- ① ケネディ      ② ジョンソン      ③ ニクソン      ④ レーガン

問5 文中の下線部(4)に関連した説明として正しいものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 49

- ① チェコスロヴァキアでは、ドブチェクが大統領となった。  
② ハンガリーでは、ナジ=イムレが復権し大統領となった。  
③ ポーランドでは「連帯」の指導者であったワレサが大統領となった。  
④ ルーマニアではチャウシェスク政権が民主化を実現した。

問6 文中の下線部(5)に関連して、バルト3国の組合せとして正しいものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 50

- ① ベラルーシ・ラトヴィア・リトアニア  
② エストニア・ラトヴィア・リトアニア  
③ エストニア・ベラルーシ・リトアニア  
④ エストニア・ベラルーシ・ラトヴィア